



同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]

Vol.21
April 2014

DIR INFORMATION



2014年度プロジェクトメンバー募集

各プロジェクトの紹介は、広報誌「ippo」にも掲載されています。ローム記念館事務室、スタジオZeroでは、いつでもご相談やお申込を受け付けています。

新メンバー募集イベント

4/2(水)~5(土) 10:00~15:00
プロジェクト説明会@ローム記念館正面入口付近 (GF)

4/17(木) 16:45~19:00
プロジェクト交流会@劇場空間

4/21(月)~25(金) 16:30~18:30
プロジェクト個別説明会@2Fプロジェクトルーム

詳しくは広報誌「ippo」をご覧ください。

編集後記

コミュニケーションには「想像力」が必要だ。

対面対話によって情報を伝える時、自分が発信する言葉や視線、動作などの情報が相手にどのように受け取られるかを想像する。相手の表情や言葉から自分の伝えたいことが理解されているかどうかを想像する。情報を受ける時、相手の言葉や表情から言葉だけでなく、なぜその情報が自分に向かって発信されたのかを想像する。私たちは短時間に何度も想像力を働かせながら会話をしている。

一方、言葉以外の情報量が少ないインターネットを介した情報のやりとり、例えば、SNSやtwitter、LINEなどは、比較的ゆっくりと想像する時間があるが、情報が少ない分、真剣に想像することを放棄すると相手の真意が見えてこない。言葉は文脈によってさまざまな意味を持つ。短い言葉であればあるほど、行間を読む力、すなわち想像力が求められる。

プロジェクト活動のみならず、社会のいたるところで「コミュニケーション能力」の必要性が叫ばれている。プレゼンテーションや話すスキルを磨くということも大切だが、まずは「想像する」ということも意識してほしい。

(同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会委員長 大久保 雅史)



表紙の人

あめのもり ちしゅう
雨森千周さん

同志社大学理工学部
インテリジェント情報工学科3年次生
「スタジオZero」所属

2012年の入学と同時に、劇場空間でのイベント企画運営を行う「舞台計画」に参加。チームの改編に伴い「スタジオZero」メンバーとして、Illustratorを使っの広報ツール制作を中心に精力的に取り組んできた。2013年度同志社ローム記念館大賞発表会・授賞式の横断幕やステージ装飾、スタジオZeroの最終成果報告資料など、制作物を一手に担当。写真は、最終成果報告会での機材操作のようす。

プロジェクト・サポート 募金のお願い

学校法人同志社 総長 大谷 實
理事長 水谷 誠

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまでも現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみならず皆様からご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。

新「プロジェクト」始動!

2014年度 プロジェクト紹介
のめりこむ、3ヶ月。極める、1年
2013年度 最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会

新「プロジェクト」始動!

2003年秋、同志社ローム記念館のオープンにあわせて始まった課外の教育プログラム
「同志社ローム記念館プロジェクト」。

この春、毎年展開される1年間のプロジェクトに加え、短期間で「プロジェクト」を実践的に学ぶ
「プレ・プロジェクト」というプログラムも新たにスタートする。

自分の力を試す、自分の力を活かす、そして自分自身を見つめなおす機会として、
「プロジェクト」にチャレンジしてほしい。

同志社ローム記念館プロジェクトとは

授業でもなく、クラブやサークルでもない、「同志社ローム記念館プロジェクト」とはいったいどんなものなのか。改めてその特徴を紹介しよう。

活動期間は1年間

1年生はもちろん、2年生以上からでもはじめられる。多様なメンバーが集まり、協力し合って当初に掲げた目標の達成をめざす。全プロジェクトによる成果報告会があり、すばらしい成果をあげたプロジェクトには「同志社ローム記念館大賞」が贈られる。

活動拠点となるプロジェクトルームがある

ミーティングや担当作業などの活動がある時はもちろん、授業の合間にも気軽に立ち寄れるプロジェクトルームがある。オール同志社の学生・生徒が利用できる法人共通施設だから、同志社女子大学の学生も多数参加し、ルームで活発な活動が展開されている。

活動費が付与される

内容に応じて、必要経費の支援が受けられ、金銭的な負担が軽くなる。活動費の執行管理も自分たちで行うので、計画性やコスト意識も身につく。

プロジェクト間の交流

報告会だけでなく、スキルアップをはかるワークショップや夏休みに1泊2日で行われる「ステップアップキャンプ」など、メンバーのためのプログラムがある。多様なメンバーとの交流を深める中で、また新たなアイデアがうまれる。



同志社ローム記念館プロジェクトポリシー

同志社ローム記念館プロジェクトは、IT・メディアテクノロジーを創造的に活用した「メディアフロンティア」を目指す、21世紀の文化創造を担う人物を育成するため、次のような方針でプロジェクトを展開します。

- IT・メディアテクノロジーの活用やデジタルコンテンツの作成をテーマとしたプロジェクト
- 新しいものやしくみを創り出し、社会活動へ活かすことを目指すプロジェクト
- 学生・生徒が主体的に取り組むプロジェクト

プロジェクト活動では、自己とプロジェクトチーム、自己と社会について考える機会を提供し、活動および成果の質向上を目指します。

求める人物像

同志社ローム記念館プロジェクトでは、活動を通して多様な学びを得ることができます。次のような姿勢で活動に取り組むプロジェクトメンバーが参加することを望みます。

- IT・メディアテクノロジーの活用やデジタルコンテンツの作成に、興味・関心を持つ人
- プロジェクト活動を通して自己実現をはかるとともに、プロジェクトのより高い成果を目指す人
- 自己の成長を目指し、プロジェクトチームの一員として主体的に取り組む人

目指す人物像

同志社ローム記念館プロジェクトの活動により、次のような人物の育成を目指します。

- プロジェクトテーマやその関連分野についての知見を得て、IT・メディアテクノロジーやデジタルコンテンツ作成の分野においてリードする人物となる素養を身につけている。
- さまざまな活動において、自ら目標設定ができ、高い志をもって取り組める。
- 社会生活において、自らの経験や知識を活かし、他者と連携して主体的に活動できる。

のめりこむ、 3ヶ月。

2014年度 プレ・プロジェクト

「プロジェクト」とは何なのか？

新たにスタートする「プレ・プロジェクト」は、約3ヶ月の活動期間の中で、その間に対する自分なりの答えを見つけてもらうプログラムだ。春、秋にそれぞれ異なるテーマが用意されているが、どちらに参加しても、求められるのは「チームで取り組む」「アイデアをかたちにする」「最後までやりとげる」ことである。完成させるための手順はあるが、そこに自分なりのもの見方、考え方、やり方を持ち込めてこそプロジェクト。短期間だからこそ、のめりこみ、つくりあげる楽しさも知ってほしい。



プレ・プロジェクト<春> 「インタラクティブ・インスタレーションをつくる」



人の行為に反応して変化するグラフィックスを生成するプログラムを作成し、鑑賞者が体験できるインスタレーションのアート制作を行います。秋のテーマは「新しい『文具』の企画」を予定しています。

Leader's Comments

今回新たにスタートする「プレ・プロジェクト」。早くからポスターなどで募集をしていますので、「おもしろそうだ」「短期間だしやってみようかな」と気になっている人も多いのではないかと思います。はじめてのプロジェクトであれば、どう考えたらいいか、どうふるまえばいいか、わからないことばかりかもしれませんが、でも、まずは、3ヶ月後の自分が、「やりきった」と言える自分であることをイメージし、前向きな気持ちで臨んでほしいと思います。

土屋誠司(同志社ローム記念館プロジェクトWG委員会委員 同志社大学理工学部准教授)



2014年度 プロジェクト紹介

メンバーたちの問題意識や興味・関心が出発点となる1年間のプロジェクト。選考では、委員から厳しい質問が飛び、何を指すか、また、どのように活動を進めていくつもりでいるか、メンバーの覚悟が問われた。第11期のこれらのプロジェクトが、この1年間でどのぐらいまで高みを目指せるか、大きな期待を寄せている。



RoCoP (Robot Contest Project) RM212

【プロジェクト責任者】橋本 雅文(同志社大学・理工学部教授)

【目 標】NHKロボットコンテストへ挑戦し、優勝を目指す。

【主 な 活 動】●ロボット設計・制作 ●Webサイトの活用による技術伝承と発信 ●子ども向けものづくり教室の企画・運営

ROBOX RM213

【プロジェクト責任者】橋本 雅文(同志社大学・理工学部教授)

【目 標】コミュニケーションロボットの企画・開発ともものづくり教室の実施を通して、ロボットを身近に感じてもらうことを目指す。

【主 な 活 動】●新たなコミュニケーションロボットの企画開発 ●昨年度開発したロボット「くるりん」の改良 ●子ども向けものづくり教室企画・運営

ポータブルラボ RM215

【プロジェクト責任者】大久保 雅史(同志社大学・理工学部教授)

【目 標】スマートフォンやタブレット端末で物理や電気回路などの理科の実験を行うことができるARアプリを開発し、運用を目指す。

【主 な 活 動】●AR技術を活用したアプリ開発 ●教育機関などでの広報活動

macho編集部 RM216

【プロジェクト責任者】二瓶 晃(同志社女子大学・学芸学部助教)

【目 標】キャリア実現をテーマにした女子学生向けフリーペーパー企画・制作・発行を行う。また、コンテストでの入賞を目指す。

【主 な 活 動】●誌面の企画および取材 ●誌面レイアウトおよび編集 ●広告主企業・団体等への営業活動 ●Webを活用した企画・広報活動

プロデューサー養成プロジェクト@木津川市 RM219

【プロジェクト責任者】二村 太郎(同志社大学・グローバル地域文化学部助教)

【目 標】木津川市でのまちづくりプロデュース実践をもとに中学生向けに「プロデュース」を学ぶための教育プログラム開発を目指す。

【主 な 活 動】●木津川市内5中学校の中学生とのまちづくり企画・立案 ●中学生向け教育プログラムの開発 ●各界のプロデューサーによる講演・ワークショップの企画・運営

2014年度 プロジェクトスケジュール

各プロジェクトの活動を充実させるため、いくつかのプログラムが用意されている。

自分のチームだけでなく、他のプロジェクトメンバーとの交流の場があり、お互いに刺激し合い、高めあうことができるのが、ローム記念館の良さでもある。

年2回の報告会は活動を進めていくための目安となる。折り返し地点に設定されている中間報告会までの時間をどう過ごしたか、が他のプロジェクトに差をつける鍵といえよう。過ぎてしまえばあっという間の1年間。着実に活動を積み重ね、楽しく充実した時間を過ごしてほしい。

4月	メンバー募集(～28(月))	
5月	ウェイクアッププログラム(7(水)～30(金))	プレ・プロジェクト(春)
6月		
7月		
8月	ステップアップキャンプ(下旬)	
9月	中間報告会(27(土))	
10月		プレ・プロジェクト(秋)
11月	同志社クローバー祭(1(土)・2(日))	
12月		
1月	(2015年度プロジェクトエントリー締切)	
2月		
3月	最終成果報告会・大賞発表会(7(土))	



Pick Up!

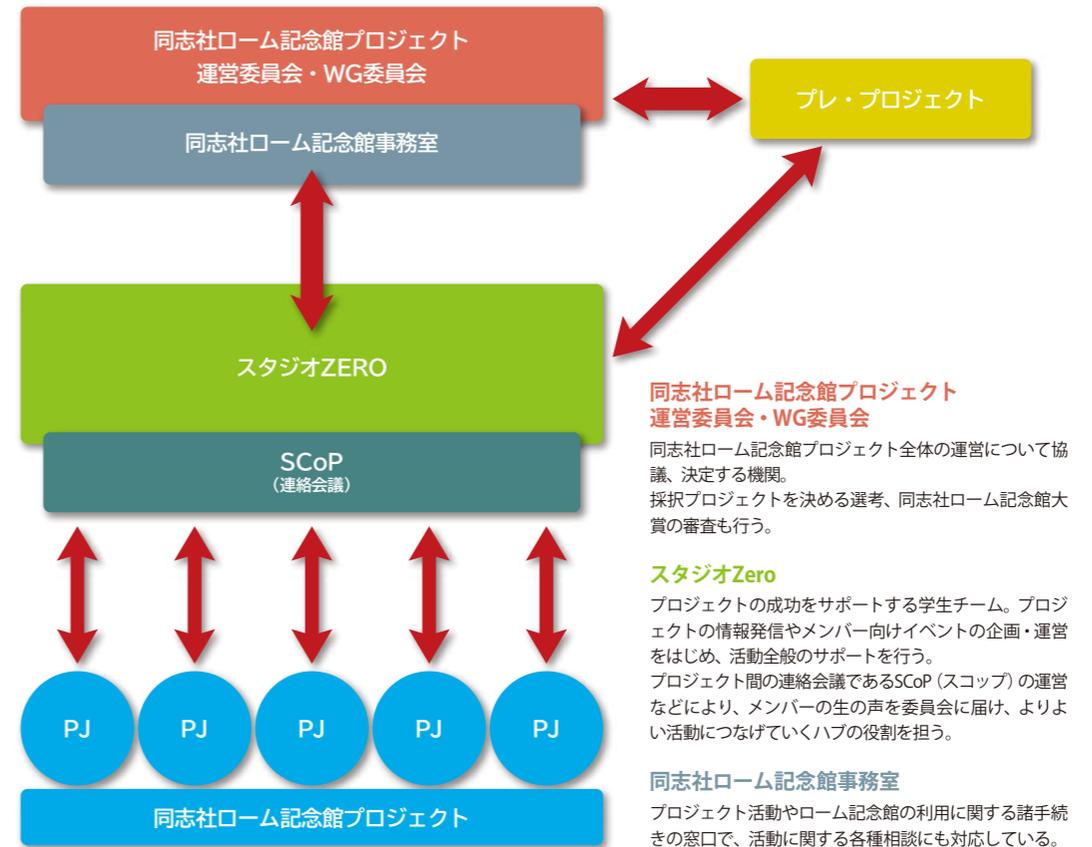
「ウェイクアッププログラム」

プロジェクトにめざめよう!というコンセプトで生まれたメンバー向けプログラムだ。ローム記念館の利用やローム記念館プロジェクトのルール、広報活動に関するワークショップや基礎的なビジネスマナーなど、プロジェクト活動に欠かせない知識やスキルを学ぶ。具体的な目標や活動だけでなく、プロジェクトそのものの意味、プロジェクトを取り巻く環境も深く理解してメンバーシップを高めよう。



プロジェクトをささえるしくみ

プロジェクトメンバーの活動や学びをサポートするために、同志社ローム記念館はいくつかの組織により運営されている。ここではそれぞれの役割をご紹介します。



Pick Up!

頼れるOP!

かつて同志社ローム記念館プロジェクトを経験した人たちを「OP(Old Project-member)」と呼ぶ。なにごとくも、振り返ってみればもっとこうしておけばよかった、と思うもの。プロジェクトの経験者は、今プロジェクトに取り組むメンバーにとって、あらゆる悩みに共感し、アドバイスしてもらえる心強い存在だ。報告会やキャンプにやってくるかつてのプロジェクトメンバーは、プロジェクトを経て、今だから見えるもの、わかることを教えてくれる。



Leader's Comments

自分が1日でできると思うことは、本当は5日かかるもの。

そのくらい、社会で求められているレベルは高いものだと思得てほしいと思います。社会には多様な人たちがいて、多くのものの見方があります。自分ひとりの視点で考えたものが完璧であるはずはないのです。チームで取り組む中で他者の視点を意識し、多くのことに気づいてほしいと思います。プロジェクトはそのような気づきに出会えるすばらしい場になるはずです。

波多野賢治(同志社ローム記念館プロジェクトWG委員会委員 同志社大学文化情報学部准教授)





2013年度 最終成果報告会 同志社ローム記念館大賞発表会

2014年3月8日(土)、2013年度(第10期)プロジェクトの最終成果報告会が開催された。過去2年間、大賞を受賞するプロジェクトがなかったこともあり、今年こそ、との期待が高まる中、6チームとスタジオZeroが1年間の活動と成果について報告しあった。

本年度の報告会では、各プロジェクト10分間のプレゼンテーションの後、各チームのブースが設置された2階のオープンスペース会場を移し、審査員による質問タイムでのやりとりを総合して評価、賞の選定が行われた。

選考では、社会とのつながりや着実な活動の様子などから、他チームとの差をつけて「同志社電子書籍プロジェクト」が大賞に選ばれた。また、今回は優秀賞の授賞チームはなかったものの、本年度より発足した「スタジオZero」が、初年度ながらプロジェクトの成功をサポートするチームとしての役割を果たすべく努力していることが評価され、次年度以降のさらなる活躍を期待して「特別奨励賞」が授与されることとなった。

夕方からは、華やかに装飾が施された会場で授賞プロジェクトの発表、授賞式と交流会が行われ、記念すべき第10期のプロジェクトを締めくくるイベントも盛会のうちに幕を下ろした。



同志社ローム記念館大賞

トロフィー・賞状・副賞(賞金10万円・記念品)

同志社電子書籍プロジェクト

●プロジェクトリーダー
木本 充彦 (同志社大学 理工学部)

●プロジェクト責任者
下原 勝憲 (同志社大学 理工学部教授)

●メンバー数 7名

<授賞理由>

何度も話し合いを重ね、2つの小学校とのコラボレーションを実現し、実際に運用しながら改善を重ねてきました。

また、新聞等メディアでとりあげられるなど、その価値が社会的にも認められるものとして完成されています。小学校、保護者、児童間の双方向のコミュニケーションと「つながり」を創りだすためにICTを積極的に活用し、「相互理解」と「共感」に支えられた学びのコミュニティ形成への第一歩をつくったことを高く評価し、同志社ローム記念館大賞を贈ります。





特別奨励賞

賞状・記念品

スタジオZero

●プロジェクトリーダー
飯野 慎吾 (同志社大学 理工学部)

●メンバー数 30名

<授賞理由>

プロジェクト間にとどまらず、委員会と各プロジェクト間の潤滑油としての役割を果たし、各プロジェクトが一定の成果を上げた本年度のプロジェクト運営に貢献されました。

また、オープン10周年記念イベントでの活躍、毎回のイベントでの反省点を次に活かして実行されていた点も評価できます。

次年度以降のますます活発な活動の展開を期待し、特別奨励賞を贈ります。



外部審査員特別賞

賞状・記念品

歌留多ラボ

●プロジェクトリーダー
穂満 建等 (同志社大学 文化情報学部)

●プロジェクト責任者
福田 智子 (同志社大学 文化情報学部准教授)

●メンバー数 10名

<授賞理由>

- 日本人として知っておくべきことを「ITを使って身近に知る」機会を作るといのはとても良いミッションだと思います。ITを活用したプロジェクトを求められる中でテーマとして「古典」を選択した発想、また「伊勢物語」を選択したこともおもしろく、メンバーの「古典」に対する愛情が感じられました。
- プレゼンテーションも一番良く、概念だけでなく、具体的な活動内容と成果物がしっかりと伝えられていました。
- コンテンツの絵が上手く、魅力的でした。
- メンバーの一体感があり、企業に足を運んで協力を仰いだり、古典について勉強したり、日々活発に活動していたようすも伺えました。



ベストプレゼンテーション賞

賞状・記念品

歌留多ラボ

最終成果報告会に参加したメンバーの相互評価による賞。最もすばらしいプレゼンテーションを行ったプロジェクトに贈られました。



Event Report

イベント報告

2014年2月～

2014年3月

● イベント

同志社女子大学 情報メディア学科 進級制作展「I'm IM」

2月19日(水)～24日(月)

恒例となっている3年生による作品展。

映像やインスタレーションなど、さまざまなメディアを活用した個性的な作品が並んだ。

主催：同志社女子大学 学芸学部 情報メディア学科



第8回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺

3月2日(日)～4日(火)

各地から計15チームが集まり、京田辺市をフィールドに調査・企画し、政策提言を行った。

主催：「全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺」実行委員会

共催：京田辺市、同志社大学



2013年度 同志社ローム記念館プロジェクト「最終成果報告会」

3月8日(土)

(詳細は、P.7～9参照)

主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会



● 展示

フォーミュラカーの展示

7月1日(月)～(継続)

主催：同志社大学 機械研究会

Pick Up!

こんなときは劇場空間!

- サークルのプロモーションビデオを流したい!
- マイクを使って試合の告知をしたい!
- 日頃の練習の成果をステージで発表したい!
- 大きなスクリーンを使ってイベントをやりたい!



まずは、同志社ローム記念館事務室へ空き状況をおたずねください。

(学生主催イベントの場合は、学生支援課への届出が必要です。)

映像放映やイベント利用に関する手続き書類は、同志社ローム記念館Webサイトからダウンロードできます。